

活 用 技 術

平成 2 1 年度

旧盆需要に対応できる品質良好な黄肉もも有望品種「つきあかり」		
[要約] <u>もも新品種「つきあかり」</u> は、8 月上中旬に収穫できる <u>中生黄肉品種</u> であり、 <u>糖度は 15% 台</u> で食味はすこぶる良好、 <u>旧盆需要期</u> に、これまでにない新たな商材を提供できる。		
農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

わが国におけるももの黄肉種は缶詰用の印象が強く、生食用は晩生種の「黄金桃」など、品種数が極めて少なかったため、(独)果樹研究所では、消費者ニーズの多様化に応えるべく、中生で品質良好な黄肉もも新品種「つきあかり」を育成した。そこで、本県における新品種の特性を把握し、新たな品種構成アイテムとして提案する。

[成果の内容・特徴]

1 育成経過

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所で「まさひめ」に「あかつき」を交雑して育成した。系統適応性検定試験の系統名は筑波 121 号である。

2 樹性

樹姿はやや直立し、樹勢は強、花芽着生が多く花粉を有し、結実性良好で生理落果は少ない(表 1)。

3 生態特性

発芽期、展葉期、開花期、硬核期は、「黄金桃」よりやや早く、収穫期は 8 月上中旬で「あかつき」の収穫後半から出荷でき、旧盆需要に対応可能な中生品種である(表 1)。

4 果実形質

果形は扁円～円で果肉色は黄色、果肉内に紅色素が少し入る。果肉は軟らかく、肉質はち密、多汁で食味良好である。核は「黄金桃」とは異なり、粘核である(表 2、図 1)。

5 収量

樹冠の拡大とともに収量は順調に増加し、8 年生までの累積収量は、「あかつき」並みで「黄金桃」を上回る(表 3)。

6 果実品質

幼木時の果実重量はやや小さいが、樹齢を重ね、樹が落ち着くにつれて果実肥大は良好となる。果皮の着色は「黄金桃」よりやや少ないが、果実は多汁で肉質ち密、糖度は安定して 15% 台を維持でき、食味はすこぶる良好である(表 3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 現在、品種登録申請中であり、平成 21 年秋から苗木が流通する予定である。
- 2 試験供試樹の栽培は、白色一重袋の有袋で、反射マルチは使用していない。
- 3 通常の防除で特に問題となる病害虫発生は認められていない。
- 4 完熟果の果肉はやや柔らかいので、過熟にならないよう適期収穫に努める。

[具体的データ]

表1 樹性及び生態(2003年~2008年平均)

品種名	樹姿	樹勢	花芽着 生程度	花粉	生理落果	発芽期	開花期			硬核期	収穫期	
							始	盛	終		始	終
つきあかり	直~や直	強	多	有	少	3/30	4/17	4/20	4/26	6/15	8/07	8/13
黄金桃 (対照品種)	直~や直	や強	や多	有	や少	4/01	4/19	4/23	4/27	6/17	8/22	8/28
あかつき (参考品種)	中	や強	多	有	少	3/31	4/16	4/20	4/26	6/14	8/01	8/08

表2 果実形質(3~8年生の平均値)

品種名	果形	果肉色	果肉内 紅色素	核周囲 紅色素	果肉 硬軟	肉質	果汁	核の 粘・離
つきあかり	扁円~円	黄	少	微	軟	ち密	多	粘
黄金桃 (対照品種)	円~扁円	黄	少	少	軟	ち密	多	離
あかつき (参考品種)	扁円	白	少~中	中	軟	ち密	多	粘

表3 収量及び果実品質(3~8年生の平均値)

品種名	3~8年生1樹 累積収量(kg)	玉揃い	平均果重 (g)	着色*	果肉硬度 (kg/cm ²)	糖度 (brix)	酸味 (pH)	日持ち (日)
つきあかり	49.1	良	198.6	3.2	2.4	15.7	4.6	9.1
黄金桃 (対照品種)	35.3	良	253.1	3.7	3.0	14.2	4.7	9.1
あかつき (参考品種)	50.2	良	213.1	3.8	3.3	14.0	4.6	9.6

*果皮の着色面積割合：1:10%、2:30%、3:50%、4:70%、5:90%以上



図1 無袋栽培での「つきあかり」結実状況(独)果樹研究所原図)

[その他]

研究課題名：にいがた園芸生産の牽引役となるオリジナル品種の開発と優良品種の選定

予算区分：県単経常

研究期間：平成14~21年度

発表論文等：なし